

名古屋大学東洋史学研究室

昭和五十六年度講義題目

学部

〈特殊研究〉

明代政治史(I)(II)

印僑とその社会(I)

——印僑析出の歴史的背景

中国古代社会史

中央アジア史の諸問題

〈講読〉

フランス版イエズス会文書(3)

中国基礎資料講読(漢書)

甲骨金文解説

〈演習〉

明清時代の中国社会(幾亭全書)

隨代の中国社会(隋書)

第三世界における南アジア

南インドの宗教と文化

〈演習〉

宋代以後における地域社会の諸問題(黄氏日抄)

明清時代資料研究(幾亭全書)

「第三世界」と南アジア

フランス版イエズス会文書

南インド文化社会論

雲夢秦簡をめぐる諸問題

水経注研究

昭和五十六年度学士論文題目

五代後周政権の支配原理について

アクバルの思想形成と宗教政策——「スルヘ

・クル」の原理にもとづく統治制度——

漢代の商人——特に「市籍」「有市籍者」の

理解を通じてみた商人の身分・社会的地位

——

戴震の学問と生活——中国的近代創造への一

視点——

清末の仇教運動

昭和五十六年度修士論文題目

元代における官営手工業と匠戸について

広西における鄉村秩序再編と「諸族雑処」

——一九世紀前半の桂平県を中心として——

『破邪詳弁』について——清代邪教に関する

森 教授

森 教授

重松 助教授

重松 助教授

重松 助教授

江村 助教授

久村 教授

浅野 典夫

石川 智明

大西 一典

田垣 薫

寺田 エミ

森 教授

森 教授

重松 助教授

重松 助教授

重松 助教授

秋野 博司

稲田 清一

大学院

一考察——

小田 則子

Sip Song Panna の民族詩人々賛哈々につ

いて——雲南地方における文化複合の一形態として——

馬場 雄司

研究活動

昭和五十六年度活動状況

研究会

〈研究発表〉

「宋代宗族制研究の課題」(小林)

「『等夷』体制から貴族制へ」(藤堂)

「張作霖父子の対日抵抗について」(李)

(以上は、昭和五十六年度東洋史学研究室において行なわれたものである。)

中国史シンポジウム「地域社会の視点——地域社会とリーダー——」

昭和五十六年八月二十五日から二十七日まで、名古屋大学文学部

東洋史学研究室の主催により、岐阜県中津川市で同シンポジウム

を開催した。その詳細は、シンポジウム報告書『地域社会の視点

——地域社会とリーダー——』(同東洋史学研究室編、一九八二年)に譲る。

近代史研究会

〈講読〉

『五四時期期刊介紹』(中共中央 馬克思 恩格斯 著作編訳局研究室 編)

『日本近代化の世界史的位位置』(芝原拓自著)

『歴史像再構成の課題』(幼方・遠山・田中編)

(この他、林金枝、陶文釗、黎澍らの諸論文を講読した。)

〈研究発表〉

「新民学会の思想」(成田)

「国民革命期翟秋白の中国革命論」(森)

「一九二〇年代中日外交の側面

——吉田茂対張作霖の場合——」(李)

「最近の洋務運動研究について」(奥村)

「一九三〇年代中国における『集中』『独占』と国家に関する覚

書」(奥村)

「清末の実業振興」(倉橋)

「旧中国資本主義に関する若干の問題」(奥村)

「団練と郷勇の関係について

——湘郷団練と湘勇の場合——」(目黒)

(毎週土曜日、東洋史学研究室にて行なう。)

アジア民族文化研究会(通称、バルパロイ研究会)

〈講読〉

『森林の思考・沙漠の思考』(鈴木秀夫著)

『中央アジアの歴史』(間野英二著)

『祖霊の世界——アジアのひとつの見方』(飯島茂著)

『イスラム——思想と歴史』(中村廣治郎著)

『アフガニスタンの農村から

——比較文化の視点と方法——（大野盛雄著）

「ティムール朝の社会」（間野英二 岩波講座『世界歴史』8所収）

編集後記

〈研究発表〉

「アクバルの思想形成と宗教政策

——『スルヘ・クル』の原理にもとづく統治制度——」（石川

「岩田慶治『東南アジアの少数民族』書評」（後藤）

（隔週の火曜日、東洋史学研究室にて行なう。）

正誤表

『名古屋大学東洋史研究報告』第八号をお届けします。諸般の事情により発刊が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

本号では、かつて当研究室で教鞭をとられていた谷川道雄先生より玉稿を戴くことができました。奇しくもその他の執筆者―葭森・榎本・藤堂・小林諸氏はいずれも谷川先生の薫陶をうけた方々です。谷川史学の潮流を諸論文の内容から感じとっていただければ幸甚です。

なお、当『研究報告』の体裁を本号より改め、目次を表紙に移すとともに、裏表紙に英文タイトルを刷り込みました。今後とも本誌の改善につながる御意見をたまわるようお願い申し上げます。

（井上）

第七号で以下の誤りがありましたので、訂正してお詫び致します。

頁 行 誤 正

八六 上一四 即目的 ↓即目的